

2016年大納会

2016年12月30日、この1年の取引を締めくくる大納会を行いました。
福岡市内の会員証券会社の方々をはじめ、約30名の市場関係者の皆様にご出席いただき、
奥井理事長の挨拶と、引き続き理事長の音頭によって、くる年の平穩、証券界の益々の繁
盛、ご列席者の皆様のご健勝を祈念して恒例の「博多手一本」を入れました。



理事長挨拶 (2016年大納会)

理事長の奥井でございます。平成28年の福岡証券取引所大納会にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

先ずは、この1年、会員証券会社をはじめ、市場関係者の皆様には大変ご苦勞様でございました。

お陰をもちまして本日、今年の市場業務を滞りなく終了し、このように多数の関係者にお集まり頂き、無事納会を執り行うことが出来ることに感謝し、衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、今年を振り返りますと、国内外の色々な分野で、これまでの常識が通用しない事象が多く発生しました。特に自然災害・異常気象の多い年で、1月の西日本での記録的な寒波・大雪に始まり、衝撃的だった熊本地震や桜島・阿蘇中岳の爆発的噴火や観測史上2番目に多い台風や局地的集中豪雨が各地を襲いました。被災された方々に心からのお見舞いを申し上げますと共に熊本城を始め1日も早い復興を祈念しています。

又、国外では各地でテロが発生し、イギリスのEU離脱、イタリアの国民投票やアメリカ次期大統領選等に見られる様に世界の潮流が内向志向にあり、大きな転換期に差しかかっている気がしています。

一方、明るい話題として、8月に開催されたリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックで日本の若いアスリートらが活躍し、獲得したメダル数は過去最多の41個となり、4年後の東京へ弾みがつきました。10月には、福岡市出身の大隅良典東京工業大学栄誉教授が、ノーベル医学・生理学賞を単独受賞されました。

次に、経済に目を移しますと、初のマイナス金利を導入した日本を含め主要国で長期金利が過去最低となりました。新興国経済の鈍化や主要国の政治経済の不透明感等で世界経済全体の不確実性に対するリスクの懸念があるものの、我が国経済そのものは政府・日本銀行の大胆な金融政策や機動的な財政政策の効果を受け、基調としては緩やかに拡大しており、持続的な成長路線への道を進みつつあります。

今年の株式市場を見ますと、大発会では日経平均株価が戦後2番目の下げ幅と大波乱の幕開けとなりました。年初から中国景気の不透明感、急激

な円高・原油安等で年央まで低調でしたが、後半には米国景気の回復やトランプ次期大統領の選出から米国の株式市場が先行的に反応し、株価の推移は、年初の1万8900円台から、6月に1万4900円台まで落ち込み、12月には年初来の高値を更新するまで上昇しV字回復を示しています。ここにきて、個人の投資マインドを次第に明るくしており、今後を期待しています。

次に、市場の活性化を支えるIPOの状況についてですが、全国では昨年92社でしたが、今年も83社と引き続き好調な流れを維持しています。私ども福証についても、お陰様で、昨年2社に続き、今年6月に(株)ホープ、10月に九州旅客鉄道(株)、11月には、WASHハウス(株)の3社の新規上場。それに(株)西日本フィナンシャルホールディングスのテクニカル上場があり、合計4社の上場でした。又、福岡をはじめ九州各地の開業が盛んですので、地域の関係者の協力を得て、6月にIPOに特化した相談センター「九州IPO NAVIGATE」がスタートしました。これにより、地域の若い企業の皆さんが気軽に相談できる場を提供することで、IPOを目指す企業の裾野拡大に繋げていき、IPOに向けた流れを大きくしていきたいと思えます。皆様には引き続きご支援をよろしくお願い致します。

最後になりますが、私ども福証は、地域経済の活性化を支えるべく「地域になくてはならない取引所」として、地域から信頼され、地域の関係者に使い勝手の良い取引所を目指して役職員一丸となって取り組んで参りますので、引き続き皆様方のご支援・ご協力の程をお願いいたします。この1年間、誠に有難うございました。皆様にはどうぞ「良い年」をお迎え下さい。